

令和7年度第1回地域福祉活動計画策定・推進評価委員会 会議録（要旨）

1 開催日時

令和7年6月16日（月）午後4時00分～午後5時30分

2 開催場所

練馬区立区民・産業プラザ Coconeri3階 ホール(中央)

3 議事要旨

（1）事務局長挨拶

事務局長より挨拶。

- ・委員の皆さまには、第5次計画に取り組みながら、次期計画に向けてのご意見や具体的な取り組みをお示しいただき、第6次計画が出来上がったことに感謝申し上げます。計画は作って終わりではなく、具体的に地域福祉をどう推進していくかが重要であり、その羅針盤となるこの計画を下に、今後の進む道についてもお示しいただきたい。

（2）新任委員挨拶

各新任委員より挨拶

（3）配付資料確認

事務局より配布資料の確認

（これより司会を委員長に交代し、議題に沿って進行）

（5）練馬区地域福祉計画について

委員より当日配布資料（練馬区地域福祉計画）に沿って報告。

- ・練馬区地域福祉計画～みんなでつくる誰もが安心して暮らせるまちプラン～の位置付け、計画の期間、基本的な考え方と施策の体系について説明。
- ・新たに重層的支援体制整備事業、地域福祉と再犯防止、孤独・孤立対策を加えた。練馬区社協が中心となり担う事業として、練馬ボランティア・地域福祉推進センター（以下VC）によるどこに相談していいかわからない相談や社会参加の支援、生活サポートセンターによる住まい確保の相談や生活困窮者支援、レインボーワークによる就労支援の充実、再犯防止対策はVCや生活サポートセンターによる相談支援や社会の理解促進への取り組み、権利擁護が必要な方への支援は権利擁護センターほっとサポートねりまが中核機関を担う。令和6年度開設の終活相談窓口では相談を通じた新たな支援の充実を目標としている。

(質疑応答・意見)

(委員) 「どこに相談していいか分からない」相談窓口にVCが位置付けられている。

VCがインフォーマルな団体等とつながって気づきを共有していることが練馬ならではの特徴。重層的支援体制整備事業は都内23か所で実施されているが、主に専門機関同士の連携が進んでいるものの、インフォーマルな団体等との連携が課題の地域が多い。練馬区社協はこの特徴を発揮できるという。

(6) 第5次地域活動福祉活動計画の評価について(事務局より説明)

- ・5か年計画で2つの柱を掲げ、チームに分かれて委員とともに取り組んだ。
- ・柱1から、分野を超えたネットワークの構築について、社会福祉法人等のネットワークを活用した多様な参加を促進するとともに個別支援の課題を共有し仕組み作りに取り組んだ。
- ・柱2から、権利擁護の視点をもった地域生活支援の推進について、当事者の力を生かした福祉教育に取り組み、令和6年度は郵便局との連携に取り組んだ。
- ・事例検討チームがまとめた事例は当事者の力や関わる人を突き動かす力を再認識した。

(質疑応答・意見)

(委員) 郵便局の取り組みなど形にして見せていくことが大事。第5次計画の事例で表わされた地域福祉コーディネーターは、第6次計画では推進力のひとつとして社協職員全員と位置付けており、VCだけではなく練馬区社協の思いが出ている。

(7) 第6次地域福祉活動計画の推進について(事務局より説明)

- ・6月1日発行ねりま区報で第6次地域福祉活動計画の発行、概要版の配布を周知。
- ・練馬区社協の主な取り組みとして、地域福祉活動計画本編を抜粋して説明した。
- ・推進力のひとつであるネリーズの取り組みを強化し地域福祉を推進していくためチームで取り組んでいきたい。チームは公式LINEチーム、ネリーズ通信チーム、ネリーズ交流会チーム、評価チームに加え、法人ネットや郵便局、地域団体等によるネリーズ活動を推進するため団体ネリーズチームを新たに設けた。各委員にもチームに加わっていただきたい。

(各委員の意見)

委員	カラフルできれいに出来上がっている。概要版は分かりやすい。取り組み内容にボリュームがあり、今後どこからどう取り組んでいくかになってくる。社協の活動は作業所のような現場や相談支援、生活支援、成年後見など多岐にわたる。スタッフの数や人材育成も含めた人の問題なども踏まえて示せるという。
委員	福祉に興味のない方、接点のない方が手に取って分かりやすいことが重要で、目に付きやすいように出来上がっている。興味・関心が向かなかった人が見て、二次元コードもあり、より詳しく分かるようになっている。

	いきなり本編でなくても、多くの人に概要版から入ってもらい地域福祉とは何だろうと思ってもらえたらいいのではないかな。
委員	計画の推進力と3つの柱を示した木の図が分かりやすい。厚い本編より概要版から入ってもらえれば計画の趣旨を掴んでもらえるのではないかな。一番大事なことは計画を実行していけること。共に活動するとともにサポートしていきたい。
委員	重層的支援体制整備事業が新たに計画に入り、かつて区が設けた総合相談窓口ではカバーすることが難しかったひきこもりや生きづらさ抱えた人への支援が進むことを期待する。チラシもVCが入り分かりやすくなった一方、長く困っていた親御さんがようやく相談できたのに実際とのギャップもあるようだ。保健相談所もひきこもりの相談窓口であることなど、団体を含めてどこまで共有できているか。情報が必要な人に届くよう、この計画を通じてより知ってもらえるとよい。
委員	出来上がったこの計画をぜひ見てもらおうと、東京都老人クラブ連合会に持って行った。困っていることを困ったと言える地域があることに人は力をもらえる。この計画を通じて、目の前が真っ暗になった時にも声をあげることで道が開けて行けると実感している。
委員	委員として計画をまとめていく過程に携わりながら、さまざまな場面で他の委員や職員と話す中で社協や地域福祉への理解が深まった。第6次計画に取り組むにあたり、初めから全部100点でなくても重点的なところから取り組んでもいいと思う。折角の計画や取り組みも必要な人に届いているかの課題もある。必要な人に届けていくことができればよい。我々も団体や活動の中で区民に広めていきたい。
委員	この計画の良いところは、社協の活動計画として実際の活動を図式化し、説明自体が難しいことを工夫してまとめられている。とりわけ人がどのように動いているか、コンビニの店員や民生委員などいろいろな社会で暮らしている人が実は社協活動に関わっているという大事なことを示している。地域福祉活動は社協職員が動くのではなく地域住民が主役であるもの。今後実際に現場でどう実行、工夫していくか、お互いに出会えてよかったと確かめ合えるものになってほしい。
委員	概要版はよくまとまっている。第1次計画から始まって15年以上が過ぎているが、地域福祉活動計画は階段を登るように取り組んできたもの。今回第6次計画という区切りで始まっているが、多面的にずっと続いている取り組みであることを忘れず意識して進めてほしい。
委員	とても見やすく、ネリーが水遣りをしている表紙の絵もほっとさせられる。この計画がどこに置かれるか興味深く、人が集まるところに置いてほしい。この計画には、地域生活の困りごとをどこに持って行けばいいかが書いてある。虐待などの悩みを聞いてくれるところがあることが分かるだけでも大きい。当事者にとってそれを知ることができるかが大事であり、

	計画に書いてあることを見てつながっていいと良い。
委員	概要版を見て、3つの柱、目指す姿があり、活動計画が考えていることが示されていて分かりやすい。認め合うという言葉が大事。今まで福祉は支援という表現だったが、この計画では、同じ土俵で話をして、受け止めて、つながるところを一緒に考え、そして活動するところにつながる。さらに本編で具体的な事例が出ている。これまでの教科書的な概念が書かれていたものに比べ、地に足が着いた、思い描いた情報がまとめられている。
委員	他区で事務局がこれだけ参加している委員会はない。いろんな役割で参画していることがよい。計画の見開きに地域の課題、地域での取り組み、練馬区社協の取り組みが示されている中の地域での取り組みが大事。先程練馬区社協の取り組みの説明があったが、地域での取り組みが広がる練馬区社協の取り組みであることが、計画の構成からも他区と比べても特徴であると感じた。ネリーズかるたが5次計画から増えていない。最初から 50 以上あり今後もネリーズマインドを見せていくなら、最終的に 74 万に増えて行けるよう活動計画ごとに増えていくことを目指すことが広がりになるのではないかな。
委員	練馬区でも今年度からねりま協働ラボが始まった。6次計画でも紹介されているこどもまんなかネットねりまの皆さんとともに、行政と民間の顔が見える関係をつくり、最終的に支援を必要とするこどもに届くよう体制づくりに取り組んでいく。
委員	計画書はどこからでも読むことができ、視覚にも分かりやすくできている。練馬区と練馬区社協の両計画は両輪であり、区民にとっての計画になれるよう取り組んでいく。
委員	今回の計画を見た法人職員も見て分かりやすいと言っているだけでなく、自分たちも法人ネットで活動してきたことやネリーズとして関わっていることを実感できたのではと思う。また、今回は事例をまとめる作業などから社協職員もつながる機会になったと感じる。森本先生が言っていた住民主体を引き継いできたと同時に、職員同士の距離が近くつながっていることが計画の推進に大事なことである。飯村先生が示されてきた事例を積み重ねていくこと、また社協内部のつながりをこのまま続けて行くことが、この計画が地域のみなさんに浸透していくことになると思う。
委員	第6次計画策定を振り返り、あらゆる課題ややるべきことが徐々に集約されていき、委員の意見を反映しながら改訂を重ね、みんなで作った計画として出来上がったことに感謝したい。

(事務局) 第6次地域福祉活動計画の策定に際し、委員の皆様には事例検討や地域団体等へのインタビューを通じ、社協職員と一体となってお尽力いただいた。計画を分かりやすくするべきとのご意見や、コロナ禍を踏まえた第6次計画策定の重要性についてのご指摘を多数賜り、深く感謝する。皆様の惜しみないご

協力により本計画は無事に完成した。今後とも本計画の周知と実効化に向け、
ご支援ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

4 次回日程

令和7年11月を予定。今回と同様の時間帯で開催。